

2000年1月～2015年12月までに
当院において肝臓癌の手術をお受けになった患者様へ

(1) 研究の概要について

当院では「肝細胞癌発症と高悪性度化に関する分子機構の解析（承認番号：M2015-548）」を実施しております。

肝細胞癌の多くはウイルス性肝炎や脂肪性肝炎などの慢性肝炎や肝硬変の状態から発生すると考えられていますが、発生メカニズムはまだ完全には解明されていません。

現在までに肝細胞癌において様々な予後を規定するマーカーが検索されていますが、これらのマーカータンパクは患者様の病態を把握するための指標として用いられるほか、特異的な抗体や拮抗する物質を用いてそれらタンパクの過剰発現を抑制することにより抗腫瘍効果が得られる可能性があり、治療戦略としても大変重要と考えられます。本研究では、肝細胞癌においてマーカータンパクとなりうる種々の分子について、癌の分化度による発現の差異や予後に及ぼす影響、病態との関わりなどについて解析します。

具体的には2000年1月～2015年12月までに病理検査に提出された肝細胞癌の肝切除検体を対象としています。本研究は患者様お一人ずつの直接のご同意を頂かずに、このお知らせをもって患者様皆様からのご同意を頂いたものとみなさせていただきます。なおこの研究における患者様の費用負担や謝礼などはございません。

研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加をご希望されない場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究題名：「肝細胞癌と悪性転化に関する分子機構の解析」 「承認番号：第M2015-548番」

研究期間：医学部倫理審査委員会承認後から2025年3月31日

研究責任者：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科包括病理学 山本浩平

(2) 研究の意義・目的について

病理検査に提出された肝切除検体において、肝細胞癌において新規マーカーとなりうる分子の同定や、それらの分子と癌の発症や高悪性度化との関係、予後との関連性などについて解析します。解析により肝細胞癌発症・高悪性度化の機序が同定できれば、新しい治療戦略の開発に貢献するものと思われれます。

(3) 研究の方法について

通常、病理検査に提出された肝切除検体は診断などに用いられます。我々は、この診断が終わった検体について研究を行います。具体的には、パラフィンに包埋された検体について4 μ mという薄さで薄切し、目的とするタンパクの発現を免疫染色を用いて検討します。

(4) 研究への参加の自由、資料の保管と、他の研究への利用について

この研究は患者様から過去検査のために採取された検体を用いて行います。患者様は自由意思に則って、この研究の参加と不参加を決める権利があります。検体については、病理部において検体を管理している以上、厳密な意味での匿名化は困難と考えられますが、実験を行う際には検体を個人情報とは完全に分離した形で扱っておりますので、本研究によって患者様の個人情報が漏れる心配はありません。また、国内外に研究の成果を論文・学会等で発表する場合も、個人の特定はできないようにしております。他の研究への利用はありません。なお研究終了後のデータの扱いについては、論文の根拠となるデータは発表後10年間は保管します。保管責任者は研究責任者とし、保管場所については包括病理学の実験室における所定の本棚において施錠可能な状態で保管します。

(5) 運営費と利益相反について

本研究は大学の運営費を用いて行われます。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、医学部臨床研究利益相反委員会に申告を行い、承認されています。

(6) 問い合わせ先

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科包括病理学 山本浩平

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45 電話：03-5803-5661 (平日 9:00～17:00)

苦情窓口：東京医科歯科大学医学部総務掛

03-5803-5096 (対応可能時間帯 平日 9:00～17:00)